

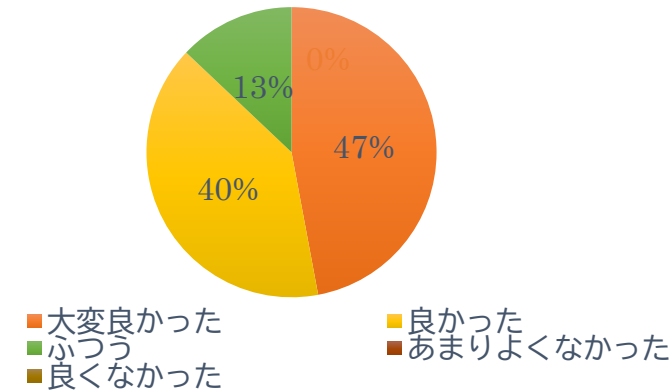


令和5年度 第1回いなべ在宅医療・介護連携研究会 を開催しました

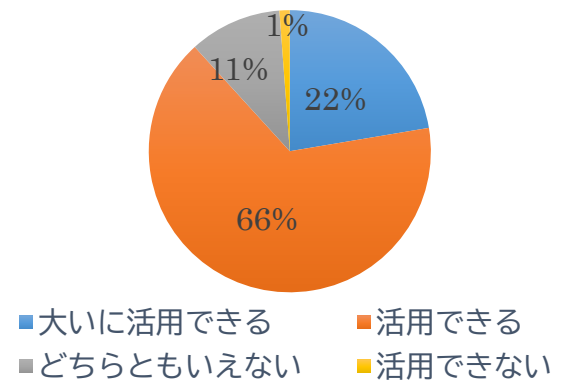
いなべ地域の在宅医療・介護連携推進事業は、事業開始から10年目を迎えました。今回は近年ようやく社会に知られるようになってきたLGBTをテーマに、LGBT特有の困りごとや将来像について医療・介護現場での理解を深めるために開催しました。

アンケート結果

本日の研修会の内容はいかがでしたか？



研究会の内容は、今後の業務において活用できますか？



Part1

日時:令和5年6月29日(木) 16:00~17:00

参加者:いなべ市・東員町の医療・介護関係者など

講師:当事者の母親 浦狩 知子氏

テーマ:「多様な性~家族の願い~」



内容:トランスジェンダー当事者の母親として、自分の人生や思い、相談や講演活動の中で得られたLGBTQ+についての理解や現状について情報提供

(一部抜粋)

♥親として子どもの告白をどう受け止め、どう対応しそこからどのように活動してきたか、実体験のお話がとても心に残りました。

♥自分なりにLGBTについては理解しているつもりだったが、当事者と家族がこんなに深刻な状況になっていることに考えが及んでいなかった。

♥性別については診断の上で出生時の性別が必要なこともあるため、本日お話しされていた FTM(女性から男性へ性別移行を望む人)や MTF(男性から女性へ性別移行を望む人)のように出生時の性別が分かる表記があると診察しやすいと感じました。日本ではまだ数が少ないノンバイナリー(性別のどちらにもはっきりと当てはまらない、また当てはめたくない)の方や一人称を they(彼らは)と名乗る方など個々に沿った知識を診療や問診票に取り入れていくのは時間もかかり理解も得られにくいいため、常に今回のような勉強会で知識のアップデートが必要だと思いました。

♥LGBTの方に対応することがあれば、いなべ市に相談できる機関があるということは安心できます。

♥他病院で LGBTQ +に対してどのような取り組みがされているのか知りたいです。

♥私の友達に性同一障害で悩んでいる方が多くいる。友達や親にも相談できずに苦しんでいる人を多く見てどこか他人事のように思えなかった。大事な友達がその人らしく過ごせる世の中になって欲しい。



♥病棟選択等について、スタッフの方々が急に他科の患者さんを見ることになったり、他の患者さんも、「性別を変えれば別の病棟でもいいの?」と特別扱いを疑われる原因にもなるため、課題も多く感じました。キーパーソンは法的または病棟の規則として決められていることも多いと思います。カルテのシステム等の制限でLGBTQ+に配慮したいと思っていてもできないことがあると思うので、他の病院での取り組みを知りたいです。名前ではなく番号札で呼び込む方式はとてもいいと思うのですが、私では大きな病院のシステムを変えることはできないため、もどかしい思いがあります。

事務局より

アンケートへのご協力ありがとうございました

今回は2回にわたり「LGBTについて知ってほしいこと」について、講師の方より講演いただきました。みなさんからの意見、質問では、「他病院での取り組みを知りたい」という声を頂き、後日講師にお聞きしたところ、MTFトランスジェンダーの方で、精神科からの診断がある方に対し、女性ホルモン治療をしているところがあるということや、職員がLGBTについて理解したうえで、待合室などへのレインボーフラッグの設置・多様な性についてのポスターや説明・取り組みなどを掲示している病院もあるということでした。「LGBTで声をあげられず、苦しんでいる人がいる」ということを理解し、それぞれの医療や介護の現場で、どんな配慮ができるか、そんなことを考えていけたらと思います。



Part2

日時:令和5年8月7日(月) 16:00~17:00

参加者:いなべ市・東員町の医療・介護関係者など

講師:産婦人科医 藤田 圭以子氏

テーマ:「多様な性~医療・介護従事者に知ってほしいこと」

内容:トランスジェンダーの人たちは、しばしば医療機関への受診を躊躇し、あるいは自分の健康不安について医師に開示できないことがある。その背景にはどのような事情があるかなどについての情報提供

